浜松アーツ＆クリエイション × 表現者・活動者 サポートのかたち

浜松アーツ＆クリエイションではライフワークとして、浜松の文化・芸術を担う方々と、夢や希望を語り合っています。時には、夢や希望を実現するために課題となることについても。そして、課題を解決し、夢や希望を実現させるためのサポートをしています。令和5年度に実施したサポート事業の「文化芸術活動ビルドアップ講座」と「アクト・アート・ストリート」。それぞれのサポート事業に、同じく夢や希望を語り合った2人のライターが参加し取材していただきました。

文化芸術活動ビルドアップ講座
「次の一手を考えよう！」

WRITER
はまかぜポートレイト
2024年2月11日

普段から興味のあるアートイベントに参加することが多く、今回も講座の内容に惹かれて参加しました。インタビュー記事制作が文化芸術活動に役立つ可能性があるのか、考えるためのヒントになればと思いました。

資金と場所、どう確保する？浜松のアートシーンを支える人たち

浜松アーツ＆クリエイションでは、文化芸術活動をされている方へのヒアリングを行ってきた。共通する課題として「計画性」「連携」「資金」「広報」が浮かび上がった。これらの課題を複合的に解決するため、企画したのが本講座（全5回）。

コーディネーターには、清宮陵一さん（NPO法人トッピングイースト）。「一方的にではなく、受講者の皆さんや、各回のゲスト講師の皆さんと一緒になって考えながら、形にしていきたい」という思いのもと、各回のテーマに沿って招いた講師陣のパネルディスカッションに加え、受講者の企画を元に話し合う時間も設けられた。受講生にとっては、清宮さんや講師陣から実体験を交えた具体的なアドバイスがいただけるという、貴重な時間となった。

浜松でアート活動をしようと思うとき、「どこで行えばいいのか」「費用はどうするのか」といったことは課題になりやすいのではないだろうか。第２回は、浜松市内の企業が関わるアート活動や支援の在り方についてとりあげる講座となった。

当日の会場は、浜松市新津町にある「ときはまスクエア　Portサイト」。常盤工業新社屋「TOKI PORT（ときポート）」と浜松いわた信用金庫　野口支店・曳馬支店が併設するエリアで、企業団体や地域の利用者の交流の場となっている。

講師は、米澤浩祐さん（浜松いわた信用金庫 SDGs推進部 副部長（地域貢献課長兼務）JTCC認定　観光プランナー）、橋本成美さん（常盤工業株式会社 社長室 経営企画担当）。

橋本さんからは、「ときはまスクエア」のコンセプトやこれまでに開催されたマルシェ、イベント等が紹介された。館内は展示やワークショップ、楽器演奏が行えるスペースが充実しており、駐車場も屋外イベントの会場として利用できるという。

米澤さんからは、「天浜線　人と時代をつなぐ花のリレー・プロジェクト」について紹介。公益財団法人・静岡県西部しんきん地域振興財団が事務局となり運営し、企業が協力団体や地域住民とともに活動している。また、同財団が行う地域の文化芸術活動への支援についてもお話があった。

パネルディスカッションでは補助金や助成金をどう確保していくかや、活動場所をどう決めるかが話題に。

講演後、それぞれの活動や「アートとは何か？」「浜松のアートシーンについて思うことは？」などのテーマで自由に語り合った。

参加者からは、
「浜松市内でアートに関する支援がこんなにあるとは、知らなかった。他にも、多くの活動をしている人がいることに驚いた。よい機会だった。」と感想が寄せられた。

何かしたいと思う人、場や資金を提供できる人…アートに関わる人が集まり、円座を組んで互いに話をする。こうした情報交換の「場」が次の一手を見つける手がかりになっていくのかもしれない。
（第１回、第２回講座レポート抜粋）

続きは浜松アーツ＆クリエイションHPをご覧ください。

今回の講座では、人と繋がったり、活用できる制度を知ったりすることで、やりたいことに注力できる可能性が広がるのだと学びました。普段はお会いすることも難しいような講師の方と直接お話しできたことは、貴重な経験でした。また、浜松で活動されている方々と出会えたことも、大きな収穫でした。今後も、ゆるく繋がっていけたらと思います。

アクト・アート・ストリート

WRITER
あやこあにぃ
2024年2月4日

自分の小説をアートのように展示してみたい。
そんなことをぼんやり思っていたとき、一通のメールが届きました。
偶然にも、浜松アーツ＆クリエイション主催のイベント「アクト・アート・ストリート」に展示する作品を募集中というではありませんか。しかも絵や写真はもちろん、壁面に架けられる状態であればエッセイでも書でも応募可能とのこと。これは千載一遇のチャンスと思い、かねてから「何かあったら協力しますよ」と言ってくれていた知り合いのイラストレーターさんに相談したところ挿絵を描いてもらえることに。こうして「約140字で完結する超短編小説」と「イメージイラスト」を掛け合わせた展示作品が完成しました。

イベントが開催されたのは、浜松駅に隣接するアクトシティ2階と地下1階のACT PLAZA LOUNGE。アクトシティといえば、市のランドマークであるアクトタワーを中心に広がる、浜松市と民間の施設が一体となった複合施設です。浜松市民なら誰もが知っているものの、「オフィス街」という印象が強い同エリア。このイメージを払拭するため、施設内に作品を展示しアクトシティで立ち止まるきっかけづくりをするとともに、日常に溶け込むアートをより身近に感じ親しみを持ってほしい。イベントには、そんな狙いがあるとのことでした。

参加したのは、浜松市周辺を拠点に活動する11名のアーティストです。絵画、写真、詩、小説など、さまざまなジャンルの作品が会場に展示されました。訪れた人は常設されている椅子に座って、自由に作品を観覧できます。
会期中の土日には「交流会」も開催。事前に申し込みをしたアーティストが在廊し、作品の紹介や、ポストカード・ステッカーをはじめとする自作品の販売、ライブペイントなどが行われました。

普段ACT PLAZA LOUNGEは単独の利用者が多いことから、なかなか作品に目が向かない雰囲気もありました。一方で、好きなアーティストの作品が見たいと遠方から駆けつけた方がいたり、自習に来ていた方が席を立ち作品を見て回ったりアーティストにこだわりを聞いたりする場面も。「どれもすごい作品」「展示されているもの以外も気になったので、アーティストのホームページを見てみたい」といった声が上がっていました。実際に、会場に来た方からオンラインで注文が入ったというアーティストもいたようです。

また、アーティスト同士も積極的にコミュニケーションを楽しみました。この道何十年という大ベテランから、私のような駆け出しまで経歴はさまざまでしたが、作品づくりという共通点で話が盛り上がり、交流会中の会場は常に笑い声であふれていました。このイベントは、参加アーティストの「横のつながりをつくりたい」「今後の活動の足掛かりにしたい」という想いも満たすものだったと感じています。

私自身も、今回知り合った方の個展にお邪魔したり、イベント後も出展者どうしで定期的に連絡を取り合ったりしています。さらに、挿絵を描いてくれたイラストレーターさんと正式にコラボすることも決まり、５月には一緒にイベントに参加することになりました。新たな一歩を踏み出すきっかけを与えてくれたアクト・アート・ストリートに感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も浜松アーツ＆クリエイションは同様の展示会を各地で開催していく予定とのこと。訪れた人はもちろん、アーティストにとっても意義のある場を提供することを念頭に、これからも企画などを進めるそうです。私もまた同様のイベントがあればぜひ参加したいと思います。そして、この記事を読んでおられる皆様にも、作品づくりを通してどこかでお会いできたらうれしいです！

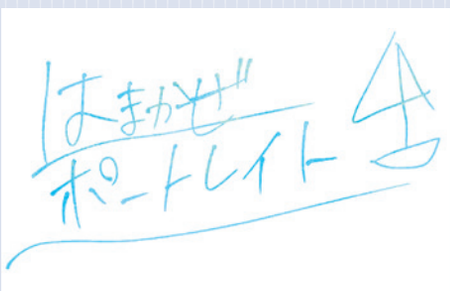
浜松アーツ＆クリエイション × 表現者・活動者

サポートのかたち

ライター紹介

はまかぜポートレイト

知り合いの作家や職人、ショップなどにお話を聞き、インタビュー記事を制作しています。肖像画（ポートレート）を描くように「人」に焦点をあてて発信することで魅力を伝えられないかと思い、立ち上げました。
記事は、Web上のメディアプラットフォームで公開しています。取材するなかで価値観を共有いただき、「こんなことも一緒にできそう」と活動が広がっていくこともあり、楽しさを感じています。細く長く、続けて行きたいです。



note

瀬口あやこ（あやこあにぃ）

元測量士の作家＆インタビューライター。X（旧Twitter）の1投稿分で完結する「140字小説」やエッセイを書いています。ライターとしては、クリエイターや企業の社員インタビュー、旅行・動物保護関係記事を執筆。
アート活動に悩んだ際、浜松アーツ＆クリエイションの相談窓口を利用したことで浜松アートライブラリに登録、アクト・アート・ストリートへ参加。今後はイラストレーター・踊場リエと創作サークル「アトリエけだま」を結成し、文学フリマ東京などに出展予定です。

note

今号の表紙

制作者

桂川美帆
（テキスタイルアーティスト）

桂川美帆 profile

1987年東京都生まれ。15歳から油彩画を学ぶ。東京藝術大学工芸科に入学後、様々な工芸技法、主に染色工芸の技法を専門に習得。2015年３月、東京藝術大学大学院において博士号（美術）を取得。2019年、浜松市に移住。2023年、世界遺産 富岡製糸場 西置繭所での個展など、展覧会多数。

現在は、染めることで得られる素材自体の発色と、絵の具とは異なる質感に魅せられ、日本最古の防染技法である「ろうけつ染」という表現手法で作品を制作している。

伝統技法を生かした独自の空間造形作品を展開し、人々の胸を打つような作品を目指し制作に励んでいる。

〈HP〉miho-katsuragawa.com

作品制作にあたって

花瓶に生けられた草木に、差し込む窓辺の光。
先ほど見た花と、いま目の前にある花は、すこし違っていて、私たちはいくつかの時間を行き来するように物事を捉えているのだと感じる。
２枚の染め布の景色が合わさって、心地よいリズムをつくってくれる。
染められた布があらわすものは、こちらとあちらかもしれないし、あなたとわたしかもしれない。複雑な世界のグラデーションの中を、行き来するから楽しいのだと思っている。
それもこれも、「染める」という行為がイメージの呼び水になっていて、作品を通して誰かの見ている景色も染め変えることができるのかもと期待しているのです。

浜松アーツ＆クリエイション
Hamamatsu Arts & Creation

発行元／公益財団法人浜松市文化振興財団
〒430-7790 浜松市中央区板屋町111-1
TEL 053-451-1158
http://www.hamamatsu-artscreation.jp

Facebook @HamamatsuArtsAndCreation
X @hamamatsu_a_c
Instagram @hamamatsu_a_c

2024.3月発行